

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利法人

海外に子ども用車椅子を送る会

代表者・役職名 氏名 森田祐和

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

ミャンマーの障害児に子ども用車椅子を送るプロジェクト

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

森田会長が血液の癌の診断を受け、長男が車椅子利用者であったこともあり、障害児への支援として海外の障害児への車椅子支援を決意し友人に呼び掛けて活動を開始した。2004年にマレーシアに16台を送ることから始まり、2006年にNPO法人となり、現在では23カ国に6661台を寄贈している。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日本では障害児が使用する医療用車椅子は数年ごとに買い替えなければならない、一方海外では子ども用車椅子は生産されていない。当会は日本の障害児が買い替えて使わなくなった車椅子の提供を受けて、整備をして海外の子ども達に送っている。ミャンマーは保健省によると、国民の2.32%が障害者であり、そのうち25%が16歳以下の子供であるが子ども用車椅子は皆無な状態である。2012年に40台を送ったが、引き続き送ってほしいとの強い要請があり、今回で4回目、合計315台を送ったことになる。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

活動自体は下記の主なプロセスに沿って実行されている。

- 1) 寄贈先との寄贈契約を締結。寄贈後の保守管理義務や、費用分担などを記載している。
- 2) 首都圏の特別支援学校経由で車椅子を収集。
- 3) 羽村市で行われる月例の整備活動で会員、ボランティアの人達の参加による整備活動を行う。
- 4) 整備完了した車椅子をコンテナに詰めて、船積みをする。
- 5) 現地での車椅子贈呈式に当会の理事が出席し、車椅子が事故なく引き渡されたことを確認する。受け入れ団体と保守管理などに関する確認の会議を持つ。
- 6) 前回車椅子を受け取った子どもや施設を訪問し、活用状況を確認。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

車椅子整備作業には毎回多くのボランティアの参加がある。小学生から高齢者まで、ベトナム、エチオピア、ネパールの人達、と多岐にわたっており、参加者同士での交流も生まれてきている。また、高校生、大学生の若者たちが一緒に作業をすることで自然に外国人との付き合いも生まれている。特に、長年中核として活動している相模女子大の学生12名と教授が当会の理事と一緒にヤンゴンの2つの病院での贈呈式に出席し、子ども達との交流も経験してきた。国際ボランティア活動の第一歩の機会となった。近年障害児の父兄と子ども達の活動参加も増えており、ボランティアの人たちとの交流も始まり、障害児との距離が急速に縮まってきた。

今回ミャンマーで以前のプロジェクトで車椅子を受け取った子ども達と家族に会って話を聞いたが、子ども達が車椅子で外出が出来るようになり、人と接触する機会が増え笑顔を見せるようになった、との言葉があったが、車椅子が障害児の社会参加への支援をしている。贈呈式に出席をした保健省の幹部は継続した寄贈を要望し、都市部から離れた田舎の子ども達への支援をしたいとの意向。

#### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ただ車椅子を送り続けるだけでいいのか？は我々の長年の課題。ただ、幸い幾つかの寄贈国で、修理整備を自分たちで行う、という広がりが増えてきて、未整備で送り、現地の人たちが修理整備をして障害児に配布している。将来的には現地での車いす製造まで望みたいが、日本の車椅子と同様のスペックにはまだまだ届かないのが現実。一団体の力では難しく、政府レベルのイニシアティブが不可欠だが、それぞれの国が抱えている諸問題の中で障害児支援はまだ優先順位が低いのが現実であり時間がかかる。その間、我々は目の前で困っている障害児を支援することを継続していく。

#### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



N P O 法 人

# 海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動  
レポート  
2018年4月 第18号

2018年2月27日  
国立リハビリ病院  
(National Rehabilitation Hospital NRH)



ミャンマー

## ミャンマー2か所の病院で車椅子引き渡し

2018年2月 95台

295台の車椅子をミャンマー政府の保健省の傘下の3か所の病院に寄贈した。  
ミャンマーには今回で4回目の寄贈であり、合計台数は315台となった。

保健省Dr. Nu Nu Kyiは「大事なプロジェクトだから」と両病院での式に出席し、過去4回の寄贈数を挙げて感謝の言葉を述べるとともに「特に地方では車椅子を手に入れることが不可能」と引き続いでる寄贈への強い要望があった。

小田理事のスピーチに続いて、相模女子大チームの学生が「日本での車椅子活動」の紹介のプレゼンテーションと日本の二人の母親からの「ミャンマーの皆様へ」の手紙をミャンマー語の通訳を通じて紹介した。



「車椅子を家族の一人と思って大切に活用してほしい」と述べる小田理事



今回車椅子を受け取った子ども達に加えて、前回2016年に車椅子を受け取った7組の親子が病院を訪問し、「動物園に連れて行けた」「近所の子と外で遊ぶことができ、友達が増えた」など生活の変化を話してくれた。

2018年2月28日  
ヤンキン子ども病院  
(Yankin Children Hospital YKCH)

贈呈式行事の後、出席した5名の子ども達代表に車椅子が引き渡された。児童施設から来ている女兒や、家族は助かっているが、まだ車椅子に慣れないのでいつも嫌がっている男児もいるとのこと。



9歳の男児は脊髄と近くの骨が損傷しており手足が不自由。



6歳の男児は体に震えやツツパリの症状がある。

今回出会った子ども達と家族の皆さん



当会の詳しい活動内容はHPで <http://kaigaikurumaisu.org>